



Windows 8.1

1	Windows 8.1 の概要	1
2	Windows 8.1 の操作	3
3	Windows 8.1 の設定	5
4	セキュリティ	7
5	Windows 8.1 の便利操作・無料アプリ	8
6	Windows 8.1 トラブルシューティング・修復	11
7	旧パソコンからデータの引越し	11

2014年7月2日
親鴨会関西支部

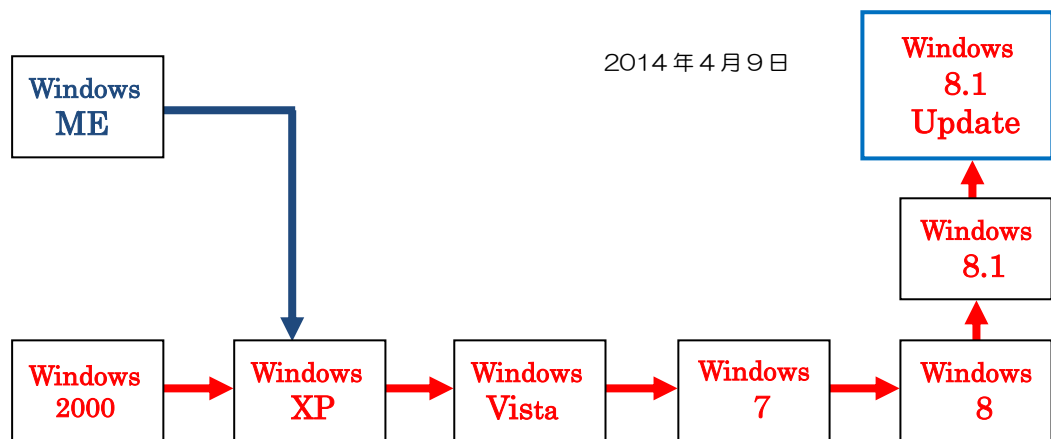
本資料で使用している製品名は、一般に各メーカーの商標、又は登録商標です。

1 Windows 8.1 の概要

1.1 Windows の変遷

Windows(OS)の基幹となる部分(カーネル)はWindows 2000とXPで採用されていたNT5カーネルに対し、Vistaで新たに開発されたLonghornカーネルをWindows 7・8も採用しています。

Windows 8ではスタート画面で様々な情報・アプリケーションのタイルをタッチやクリックで操作する画面が加わりました。



Windows 8からWindows 8.1Updateへは無料でアップデートできます。

Windows 8はタブレットとパソコンの両方に対応を狙ったOSでタッチパネル向けの新しいアプリ(ストアアプリ)を搭載しタイルの並んだスタート画面から操作できるようになりました。一方Windows 7までのアプリ(Office等従来のアプリ)はデスクトップの画面に切り替えて使うようになりました。

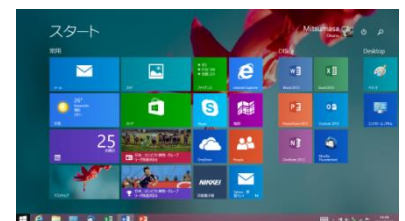
Windows 8ではクラウドサービスとの連携・高速起動・セキュリティ強化等の改良がありました。デスクトップでの操作・電源オフなどで不評があり順次改善され現在はWindows 8.1 Update版になっています。

1.2 Windows 8.1の立ち上げ時の画面

Windows 8(8.1)では電源オン後サインインして最初に現れる画面はスマートフォンのようなタイルが並んだスタート画面でしたが、Windows 8.1 Updateでは直接初期設定でデスクトップの画面が開くように変更されました。

1.3 スタート画面

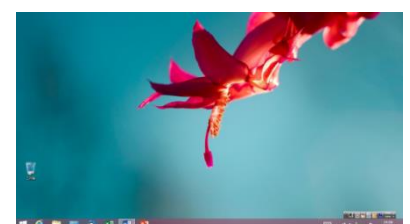
新しく導入されたスタート画面はストアアプリのタイルが並んでおりタブレットと同じ感覚で操作できます。タッチパネル操作をする場合はH/Wがタッチパネルに対応している必要があります。デスクトップアプリのタイルも置けますが稼動すると画面は切り替わります。



1.4 デスクトップ画面

Windows 7までのアプリが稼動します。

タッチパネル機能も使用できますが表示が小さいため指では操作し辛いようです。



1.5 アプリ画面

従来のスタートボタン⇒「すべてのプログラム」に相当しインストールされているアプリすべてが表示されます。

コントロールパネル・タスクマネージャー等も表示されています。



1.6 画面の切り替え

スタート画面・アプリ画面とデスクトップ画面の切り替えは Windows キーか Windows ボタンのクリック（タップ）で行います。

スタート画面とアプリ画面間の切り替えは画面左下の矢印をクリックするか指で画面を上下にスライドします。

1.7 チャーム

Windows 8 からチャームという機能が加わりました。「検索」・「共有」・「スタート」・「デバイス」・「設定」がありストアアプリに共通の機能を提供します。

「設定」にはコントロールパネルと共通する機能も多くあります。

ストアアプリの基本的な設定はほとんどチャームでできます。ストアアプリによって表示・設定項目は変わります。



1.8 マウス操作とタッチパネル操作

表示装置がタッチパネルに対応しているパソコンではタブレットと同じように画面を指で操作することもできます

- ▶ **タップ** : 項目を指先で軽くたたき
タップした項目を選択したりアクティブ化します。
マウスのクリックに相当します。
- ▶ **ダブルタップ** : 項目をすばやく2回軽くたたき
マウスのダブルクリックに相当します。
- ▶ **長押し** : 項目を指で約 1 秒押し続ける
状況に応じメニューが出たりタイトルの移動・サイズ変更・ピン止めに使用します。
マウスの右クリックに相当します。
- ▶ **スワイプ・スライド** : 画面上で決まった方向になでる
スワイプは方向が合っていれば途中で指を離してもよい。画面の移動に使用します。
スライドはスワイプと似ていますが最後まで指を離さずに行います。マウスのドラッグに似た操作です。



- ピンチイン・ピンチアウト（ストレッチ）： 2本の指で画面上をなぞるように近づけたり遠ざけたりして表示の大きさを変えます。
マウスでは画面右下隅の一マークをクリックします。
画面上でクリックすると元に戻ります。

ピンチまたはストレッチによるズーム



- 画面端からスライド： 画面端から中央に向かいスライドする。画面右端からスライドするとチャームが開きます。画面左端からスライドすると直前に使用中のアプリが表示されます。画面左端から中央付近までスライドしUターンして戻ると稼働中のすべてのアプリが表示されます。デスクトップも1アプリとして表示されます。
マウスでは画面右上隅／右下隅のポイントが画面右端からスライド、画面左上のポイントが画面左端からスライドに相当します。

端からのスワイプまたはスライド



2 Windows 8.1 の操作

2.1 サインイン・電源オフ（以降 Windows 8.1 Update も Windows 8.1 に含みます。）

Windows 8.1 にサインインする際は、「Microsoft アカウント」または「ローカルアカウント」が必要になります。初回使用時に登録可能です。

「Microsoft アカウント」は、これまで「Windows Live ID」と呼ばれていたもので、ライブメール・OneDrive（旧名 SkyDrive）等と同じID・パスワードです。

Windows 8.1 に Microsoft アカウントでサインインすると、メール、カレンダー、OneDrive などのサービスを、Windows 8.1 から利用できます。

「ローカルアカウント」とは、特定のパソコンにインストールされている Windows 8.1 を利用するためだけに利用できるアカウントです。Windows 8.1 を利用することはできますが、ストアメールやカレンダー、OneDrive、Windows ストアなどを利用する際には、Microsoft アカウントでサインインが必要です。

デスクトップ画面でのメール・インターネットなどの使用は可能です。

電源オフはスタート画面では右上のスイッチマークのボタンから行います。デスクトップの画面では画面左下隅を右クリック（タップは不可）し現れたメニューから「シャットダウンまたはサインオフ」を選んで行います。チャームの設定から行うこともできます。アカウント切り替え・ロック等はアカウント名をクリックで行います。

2.2 ストアアプリの起動・終了

スタート画面のタイルまたはアプリ画面のボタン（アイコン）をクリック／タップします。又画面下のタスクバーにピン止めされている場合はそこをクリック／タップしても起動できます。タスクバーは画面下をポイントするとしばらくして表示されます。

スタート画面・タスクバーへのピン止めはタイル／アプリ画面のボタン（アイコン）を右クリックし表示されるリストから選択します。タッチパネルではタイル／アプリ画面のボタン（アイコン）を長押しし画面下に現れるアプリバーで選択します。

ストアアプリは全画面表示での稼働が基本ですが表示装置の大きさにより横に分割して2個／3個のアプリを表示することもできます。

ストアアプリの画面上で右クリックすると画面下に各アプリに応じた操作のための

アプリバーが表示されます。タッチパネルでは画面下辺からスライドすると現れます。アプリの終了は画面右上をポイントし現れる×マークをクリックします。画面上端から画面下までドラッグ（スライド）でも終了できます。

2.3 デスクトップアプリの起動・終了

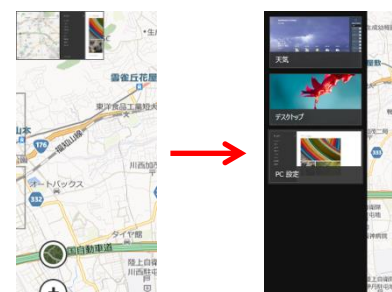
起動方法はストアアプリと同じで、起動するとデスクトップの画面に切り替わります。デスクトップでの使用が多い場合はタスクバーに使用頻度の高いアプリをピン止めしておけばパソコン立ち上げ後画面の切り替えをすることなく起動できます。デスクトップもタッチパネル操作は可能ですが表示が小さく操作し辛いです。

終了は Window 右上の×マークをクリックします。

2.4 複数ストアアプリの起動・画面分割

ストアアプリは全画面表示で稼働しますが複数のストアアプリを稼働させる場合はスタート／アプリ画面に戻り他のアプリを起動します。

複数アプリの分割表示は、マウス操作の場合の分割は画面左上隅／下隅をポイントすると右図左のような表示が出ます。左辺に沿って出ている矩形が稼働しているアプリに相当します。マウスポインターを左辺に沿って下げ矩形のところに持っていくと右図右の画面に変わります。分割で表示したい画面をドラッグで移動し画面が分割したところでドロップします。分割される前にドロップしますと画面は全画面表示に切り替わります。



タッチパネルの場合は画面左端からスライドすると直前に表示されていたアプリが表示されます。画面が分割されたところで指を離します。他の稼働しているアプリを分割で表示する場合は画面左端からスライドし U ターンして戻ると画面左に稼働中のアプリが表示されますので希望のアプリをスライドし画面が分割されたところで指を離します。中央のラインをドラッグすると分割比を変えることができます。

2.5 タイルの並べ替え・サイズ変更・ライブタイル・グループ名

タイルの並べ替えはマウスの場合はドラッグで移動します。タッチパネルの場合はタイルを長押しタイルの色が変化したらスライドします。

アプリ画面の並べ替えは画面左上方アプリ文字の右の並び順の文字をクリック（タップ）して並び順を選択します。グループ単位での並べ替えになります。

タイルのサイズ変更はタイルを右クリックしリストから「タイルのサイズを変更する」を選択して行います。タッチパネルではタイルを長押しするとタイルが選択されタイルの右肩にチェックが付き画面下にアプリバーが現れます。アプリバーの「サイズを変更する」で行います。

スタート画面のタイルは各アプリを現すイメージになっていますが、ニュース・天気・メールなどのタイルはアプリに応じた内容をタイルに表示することができます。サイズ変更と同じ方法で「ライブタイルをオンにする」をクリック（タップ）します。

タイルはグループ分けでき、各グループに名前をつけることができます。グループの上方で右クリック後「グループ名を付ける」をクリックして名前を入力します。

2.6 アプリのインストール・アンインストール

ストアアプリは全てストアアプリ内にあるストアからインストール（購入）します。ストアに登録されているアプリは全て Microsoft でチェックされたものでウイルスの危険はないとされています。

ストアではアプリ以外に商品の購入もできます。Amazon や楽天などからの購入は先ず購入手続きのアプリ(無料)をインストールしておきます。書籍やゲーム等は無料で購入できるものもたくさんあります。上に表示されている「カテゴリー」から商品を選択できます。有料商品を購入の場合は初回に支払い手続きが必要です。



アンインストールはアプリの右クリックでメニューから選びます。チャームの「PC 設定」の「検索とアプリ」からもアンインストールできます。

ストアアプリのストアはアンインストールできません。

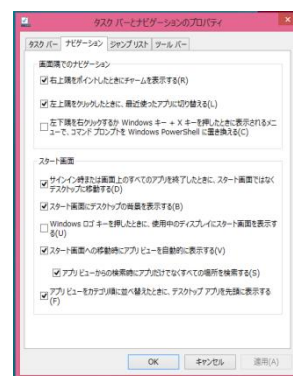
デスクトップアプリは Windows 7 までと同じくコントロールパネルから行います。

3 Windows 8.1 の設定

3.1 起動時表示画面の変更

Windows 8.1 Update では通常サインイン後に表示される画面はデスクトップになっています。サインイン後の画面をスタート画面に変えることもできます。

デスクトップ画面下のタイトルバーの空白の部分で右クリックしプロパティを選択します。表示されたプロパティの Window で「ナビゲーション」タブを開きスタート画面欄の「サインイン時または画面上の…」のチェックを外します。



3.2 その他の画面表示設定

先にスタート画面・アプリ画面とデスクトップ画面の切り替えは Windows キー（ボタン）のクリック（タップ）で行うと記しましたが、デスクトップ画面で Windows キー（ボタン）をクリック（タップ）した時にスタート画面／アプリ画面のどちらに替わるかの選択もできます。前項と同じプロパティ Window の「ナビゲーション」タブスタート画面欄の「Windows ロゴキーを押したときに…」にチェックを付け「スタート画面への移動時に…」のチェックを外すとスタート画面に移動します。「スタート画面への移動時に…」にチェックを付けるとアプリ画面に移動します。

同じ「ナビゲーション」タブのスタート画面欄でスタート画面にデスクトップの画面を表示することもできます。

又「タスクバー」タブではストアアプリをタスクバーに表示する設定もできます。

3.3 チャーム

従来の Windows では個々のアプリが備えるメニューで全ての操作ができましたが、Windows 8 の新しいユーザーインターフェイス(UI)としてチャームができました。チャームでは各アプリ共通の基本機能の「検索」・「共有」・「スタート」・「デバイス」・「設定」を提供します。

- 検索 : 各アプリに含まれるデータだけでなく設定内容・インターネットなどの検索も行います。検索範囲を選択もできます。
- 共有 : データやファイルの送信やアップロードができます。表示している写真や開いている Web ページを送信・Twitter に投稿もできます。
- スタート : Windows ボタン
- デバイス : 周辺機器の一覧が表示されます。各アプリからの印刷や画面をプロジェクターに出力等で使用します。
- 設定 : 設定チャームは上下 2 つに分かれており、上半分はアプリの設定で下のエリアは Windows 関係の設定を行います。
Wi-Fi (LAN) 無線接続・音量設定・ソフトウェアの設定・表示はここでを行います。詳細な設定は右下の「PC 設定の変更」で行います。(事項参照)

3.4 PC 設定の変更

PC 設定の変更には下記の設定項目があります。

- PC とデバイス : PC 情報・電源・ロック画面・マウス等の設定。
- アカウント : アカウント管理・サインイン方法設定等。
- OneDrive (SkyDrive) : ファイルの保存・同期設定等。
- 検索とアプリ : 検索設定・ストアアプリのアンインストール等。
- プライバシー : 位置情報・Web カメラの設定等。
- ネットワーク : LAN・ホームグループ・機内モードの設定等。
- 時刻と言語 : 地域・時刻・言語選択等。
- 簡単操作 : 障害がある方のための読上げ・画面拡大等の設定
- 保守と管理 : Windows Update・ファイルバックアップ・システム回復(リカバリー)を行います。

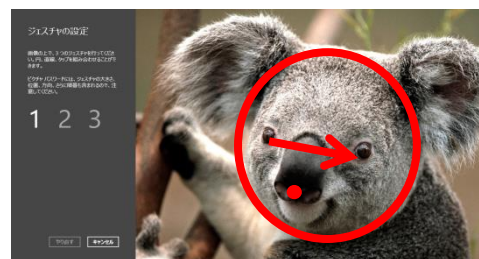
3.5 パスワードの入力方法を変更

Windows 8 から従来のパスワード以外にピクチャーパスワード・PIN(Personal Identification Number)と呼ばれる 4 桁数字の暗証番号でサインイン可能になりました。

チャームの「PC 設定」⇒「アカウント」⇒「サインインオプション」でパスワードの変更や入力設定ができます。

ピクチャーパスワードの追加を選ぶと最初にパスワードの入力が要求される。次に使用する画像を選び画像の上で「円」「直線」「タップ」のいずれかで 3 つの動作を順番に行う。この動作を 2 回繰り返して認識されたら設定完了です。マウスでの操作も可能です。元のパスワードもサインイン画面を切り替えれば使用可能です。

PIN も PIN の追加から設定可能です。

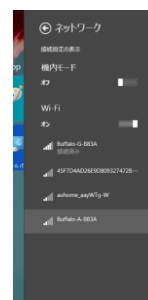


3.6 無線 (Wi-Fi) 設定

チャームの「設定」を開くと下のエリアに 6 個のボタンがあります。左上にある電波マークが無線接続のボタンです。

開くと右図の表示になります。上方に機内モードオン/オフのスイッチがあります。

下のエリアで Wi-Fi 接続できます。表示されている中から使用しているルーターの電波マークを選択し「接続」をクリックしパスワードを入力します。



3.7 Windows Update

Windows 8 は 1 年半足らずの間に Windows 8.1⇒Windows 8.1 Update と 2 回の改良版が出ました。アップデートは無料で行えます。

Windows 8 から Windows 8.1 へのアップデートは Windows 8 で最新レベルまでアップデート後可能になります。チャームの「設定」⇒「PC 設定の変更」から行いますが Windows 8 の場合 Windows Update は「PC 設定の変更」のすぐ下の項目にあります。Windows 8 のアップデートが終わるとストアアプリのストアに Windows 8.1 へアップデート (アップグレード) のためのボタンが現れます。

Windows 8.1 から Windows 8.1 Update へのアップデートはチャームの「設定」⇒「PC 設定の変更」から行えますが、ネットにつながっていればセットした設定時間にアップデートされます。Windows 8 (8.1・8.1 Update) は既定で自動アップデートの設定になっています。再起動が必要な場合も Windows 7 までの吹き出しのような表示は出ません。

再起動が必要なアップデートが行われ再起動なしに 3 日たつと自動的に再起動してアップデートを完了します。自動的に再起動する 15 分前にカウントダウンの表示が出ます。

4 セキュリティ

ストアアプリはストアから Microsoft で検証済みのアプリしかインストールできませんのでセキュリティアプリでの保護はされていません。

デスクトップアプリは既定のディフェンダー (Defender) で保護されています。Windows 7 までの Security Essentials に相当します。ウイルス検出・駆除に関しては市販のセキュリティソフトとかわらないレベルまで性能向上していますが迷惑メール対策・URL フィルタリングなどは備えていません。

更新・設定内容はアプリ画面にある Windows Defender で確認できます。

Windows 8 で新たにセキュリティ機能もあります。

- Smart Screen : ファイルのダウンロード時に怪しいと判断されたら実効が阻止されリアルタイムに Microsoft のサーバーに問い合わせが行きます。信頼できないと判断されたら警告画面が出て実行が阻止されます。
- セキュアブート・ELAM : パソコンの電源をオンにしてウイルス対策ソフトが起動するまでは Windows は無防備です。セキュアブートでブートローダー読み込み前に Microsoft 発行のデジタル証明書をチェックします。又、ELMA は各種ドライバーに先駆けてウイルス対策ソフトを起動させます。
ELMA (Early Launch Anti-Malware)

5 Windows 8.1 の便利操作・無料アプリ

5.1 デスクトップ画面に言語バーを表示

文字入力で入力モード・変換モードの確認や単語登録で言語バーを使うことがありますが、既定では言語バーは表示されていません。下記の手順で表示します。

コントロールパネルからの「時計、言語、および地域」⇒「言語」⇒「詳細設定」と開き入力方式の切り替え欄の「使用可能な場合にデスクトップ言語バーを使用する」にチェックを付け保存します。

5.2 デスクトップにアイコン表示

デスクトップにはゴミ箱のアイコンしか表示されていません。他のアイコンの表示はデスクトップ画面で右クリックし「個人設定」⇒「デスクトップのアイコン変更」⇒「デスクトップのアイコン設定」で表示するアイコンを選択します。

デスクトップで稼動するアプリをデスクトップに表示するにはアプリ画面／スタート画面で該当アプリを右クリックしリストから「ファイルの場所を開く」をクリックするとデスクトップ画面で該当アプリがあるフォルダーが開きます。フォルダー内の該当アイコンを右クリックでデスクトップ上にドラッグしメニューから「ショートカットを個々に作成」を選択します。

5.3 ストアアプリのIME

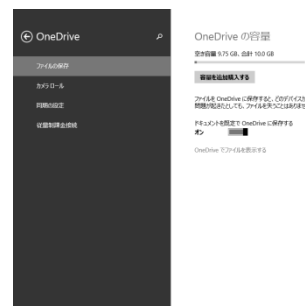
Windows 8.1 の日本語入力は Microsoft IME が標準ですがストアアプリとデスクトップアプリでは IME の設定が別になっています。

ストアアプリの IME 設定はチャームの「PC 設定」⇒「時刻と言語」⇒「地域と言語」で言語欄の日本語を選択します。下に表示される「オプション」を開き、さらにキーボード欄の「Microsoft IME」の「オプション」を開くと学習のオン／オフ・単語の登録などができます。

5.4 OneDrive

Windows 8.1 には Microsoft のオンラインストレージサービス「OneDrive」が組み込まれています。

チャームの「PC 設定」⇒「OneDrive」を開き新規作成の文書や撮影写真を自動的に OneDrive に保存する設定が可能です。Office アプリで作製したファイルの保存場所も OneDrive が規定の場所になっています。ほかのパソコンやスマートフォン等と簡単にファイルや写真を共有できます。ファイルのバックアップにも使用でき無料で 7GB まで使用できます。



アップロード等の操作はデスクトップ画面で行うのが簡単です。エクスプローラーのナビゲーションウィンドウの OneDrive を選ぶと OneDrive のフォルダーやファイルが表示されます。ドラッグ操作でファイルを出し入れするとサーバーと同期してくれます。

ストアアプリの OneDrive では左上の V マークをクリック（タップ）すると OneDrive と PC を切り替えることができます。

OneDrive はファイルの保存だけでなくパソコンの設定も OneDrive 経由で同期できます。

設定を同期することにより同じ Microsoft アカウントでサインインした Windows 8.1 パソコンが同じ設定になります。



5.5 2種類の Internet Explorer

Windows 8.1 に標準でついている Web ブラウザーはストアアプリ仕様の Internet Explorer (IE) とデスクトップ用がありどちらもバージョン 11 になっています。

ストアアプリ版 IE は使い勝手が異なり他のストアアプリと同様にアプリバーを開いて操作するのが基本です。戻る／進むはアプリバーの両端の矢印で行います。新しいタブは+マークから開きます。各ページのタブは右クリック（画面下からスライド）で下方に表示されます。

5.6 ストア便利アプリ（無料）

- Digital Live Tile Clock : スタート画面にはカレンダーアプリで日付表示はできますが時刻表示はありません。異なるタイムゾーンの時刻を3箇所まで表示できます。ストアを開いて画面右上検索で「Digital」と入力すると出てきます。
- Gガイドテレビ番組表 : エリアごとにテレビ番組表を閲覧できます。注目番組の詳細表示のほか人名・キーワードで番組検索ができます。「Gガイドテレビ」で検索できます。
- Windows お役立ち記事リンク : 導入・基本操作からトラブルシューティングまでの情報がQ&A形式で記載されています。最近のアップデートはありませんがMicrosoftからの直接の返答が掲載されています。
- Google Search : GoogleにサインインすればGmail・Googleマップ・Googleドライブ等を閲覧できます。検索も可能です。Googleで検索できます。
- Super Photo Free : デスクトップアプリには無料の写真加工アプリが数種公開されていますが、ストアアプリではこのアプリがよいようです。エフェクトを指定してから写真を選択するだけで加工できます。スタンドグラス風や壁画風等に加工できます。
- 書籍 : 源氏物語から夏目漱石・芥川龍之介・ハーレクインまで無料でダウンロードできる書籍がたくさんあります。

5.7 Windows 8.1 のショートカットキー

マウスとキーボードを併用すると操作を速く行うことができます。Windows 8 ではスタート画面・アプリ画面が増えたため新たなショートカットキーができました。

ショートカットキー	動作
[Windows]+[C]	チャームを開く
[Windows]+[F]	検索チャームを開きファイルを検索
[Windows]+[Q]	検索チャームを開きアプリを検索
[Windows]+[W]	検索チャームを開き設定を検索
[Windows]+[H]	共有チャームを開く
[Windows]+[I]	設定チャームを開く
[Windows]+[K]	デバイスチャームを開く
[Windows]+[D]	デスクトップ画面を開く
[Windows]+[O]	画面の向きを固定(タブレット向け)
[Windows]+[X]	クイックリンクメニューを開く
[Windows]+[Z]	ストアアプリ利用時にアプリバーを開く
[Windows]+[Tab]	ストアアプリの表示を切り替える
[Windows]+[L]	ロック
[Windows]+[P]	マルチスクリーンの設定
[Windows]+[Prt Scr]	画面をコピーしてピクチャーのスクリーンショットに保存
[Windows]+[.]	アプリを一時非表示にしてデスクトップ画面を表示
[Windows]+[←]/[→]	ストアアプリで全画面表示から分割表示へ
[Alt]+[Tab]	デスクトップを含めて画面の切り替え

6 Windows 8.1 トラブルシューティング・修復

6.1 PC リフレッシュ・初期化

電源オフボタンで「Shift」キーを押したまま「再起動」をクリックしオプションの選択から「トラブルシューティング」に進むと「PC リフレッシュ」・「初期化」ができます。

「詳細オプション」を選択するとさらに詳細な回復・修復ができます。イメージバックアップファイルを使っての回復・コマンドプロンプト画面を表示、「スタートアップ設定」ではセーフモードでの起動もできます。

6.2 バックアップと復元

Windows が起動しなくなった時にシステム全体のバックアップがあれば環境をそのまま復旧できます。

コントロールパネルの「システムとセキュリティ」⇒「ファイル履歴でファイルのバックアップコピーを保存」と開き「ファイル履歴」の画面左下「システムイメージのバックアップ」から行います。

7 旧パソコンからデータの引越し

7.1 ファイルコピーで引越し可能なもの

「ドキュメント」・「ピクチャー」等のフォルダーにある文書・写真・音楽等

7.2 使用ソフトに登録されエクスポート・インポートが必要なもの

メールデータ・アドレス帳・お気に入り・IME ユーザー辞書

7.3 引越しツール

Windows には新旧パソコンでデータを移行する「転送ツール」というソフトが付属していますが、Windows 8.1 の転送ツールは Windows 7 のみ対象で、XP と Vista は対象外になっています。

市販の引越しソフトやメーカーによっては引越しソフトがプリインストールされたものもあります。移行できるデータの内容はメーカーによって異なります。

移行の方法にはネットワーク経由・ケーブル直接接続（クロスケーブルが必要）・外付ディスクなどがありますが、外付ディスクが比較的便利です。

出展 : 日経パソコン (2013年~2014年)
日経PC21 2014年7月号